—広　告—

KIT
キャンパス
レポート278

文・杉村裕之

摂食障害の経験で心理学へ。悩みに寄り添える技術者に。

下出 遥華（しもで はるか）
金沢工業大学
情報フロンティア学部
心理科学科四年
石川県立穴水高等学校出身

インタビューする筆者を穏やかに真っ直ぐに見つめる瞳に、誠実な内面が宿っていた。高校時代、拒食症になり、カウンセリングを受けたことで心理学に興味を持ち、KITに入学した下出さん。四月からは、取り組んだ研究を掘り下げたいと大学院に進む。

「環境感受性（HSP）と呼ばれる気質の人が人口の一五～二〇％もいます。生まれつき音や光などの刺激に敏感で、ストレスをためやすい一方、相手のわずかな仕草や言動から感情を汲み取ることができます。私もその一人だからこそ、他人に理解されにくい特有の悩みに寄り添い、解決をサポートできる技術者になりたいですね」

卒業論文にも、この思いがこもる。テーマは「笑顔の表情解析に基づいた作り笑顔の特徴の検討」。口角の角度など顔面筋の収縮運動を科学的に分析し、自然な笑顔と作り笑顔の違いを明らかにするのが目的だ。指導にあたる渡邊伸行教授は、「今後、表情解析AIの基礎データとなりうる研究になっていきます。また、企業などが行う笑顔トレーニングで、どう意識すれば自然な笑顔に関わる顔面筋を動かせるようになるか、その知見の提供にも役立ちます」と有用性に期待を寄せる。

実は、下出さんはKIT入学後も、摂食障害で学内のカウンセリングセンターに通い続けた。拒食と過食を繰り返し、ひどい時は一年間で体重が二十キロも増減した。「それが四年次の春、気づかないうちに治っていたんです」。

幼い頃から引っ込み思案という性格は、課外活動や学内インターンシップへの参加で徐々に変わった。加えて、本人も驚く体調の安定で、さらに積極的に行動できる自信が深まった。「心の働きを知り、相手の立場で考える視点を教える心理学の力を実感し、ますます『学びたい』と思うようになりました」。

取材当日、ある偶然があった。朝のニュースで、毎週一時間、店内の照明を暗くしBGMも止めるドラッグストアや、イルカショーの際、マイクを使わず大きなボードで演技を説明する水族館を紹介していた。感覚過敏な人の不安を取り除き、買い物やショーを楽しんでもらう、「クワイエットアワー」と呼ぶ取り組みだった。そして、その数時間後、下出さんに教えてもらった環境感受性の話。

SDGsで「誰ひとり取り残さない社会」が命題の時代、彼女が貢献できる領域は大きく広がるだろう。輝きを増す瞳に、また会いたい。

金沢工業大学
石川県野々市市扇が丘七-一
電話番号（〇七六）二四八-二〇〇